

第 42 回眼科手術学会教育セミナー

マイボグラフィーで霰粒腫のマイボーム腺を見る！－めいぼグラフィー

伊藤医院 有田玲子

マイボグラフィーとは、マイボーム腺構造を生体内で形態学的に観察する方法である。30 年以上前 Tapie によって初めて報告され、さまざまな改良がなされたが、皮膚側から照明をあてる侵襲性が高い検査で一般臨床では普及することはなかった。筆者らが開発したマイボグラフィー（Non-invasive meibography, NIM）は、赤外線を用いて結膜側から非接触でマイボーム腺を観察するもので非侵襲的である。今では国際的に少なくとも 5 種類以上の NIM が各国で発売され、主にマイボーム腺関連疾患の診断、鑑別のために臨床研究だけでなく、一般研究でも多く使用されている。霰粒腫はマイボーム腺に慢性的な炎症が起きる結果、肉芽腫ができる疾患である。地方によっては霰粒腫のことをめいぼ、めばちこ、ものもらいなどと言う。筆者らはマイボグラフィーを用いた霰粒腫と麦粒腫、また脂腺癌などの眼瞼腫瘍の鑑別の可能性を探ってきた。国際的にも複数のグループが NIM を用いて霰粒腫の見え方を観察して報告している。今回は、症例写真を多数供覧しながら、NIM を用いたら霰粒腫はどう見えるか（めいぼグラフィー）、霰粒腫や脂腺癌との鑑別はできるのかなどお話をさせていただく予定である。